

# 亀山市一般廃棄物処理基本計画に関する実績等報告書(令和元年度)

( 生活文化部 環境課 )

## ■計画の基本情報

計画期間	H 29 ~ R 2 年度
位置付け	本計画は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条第1項に基づき策定するものであり、第2次亀山市総合計画前期基本計画との関連は、基本施策「低炭素・循環型社会の構築」に関わるものである。
目的・概要	法や条例の目的である「生活環境の保全や公衆衛生の向上」を確保するため、一般廃棄物の適正な処理と減量化、再生利用の推進を図ることを目的とし、今後の本市の一般廃棄物処理に関する基本的事項を示すものである。
計画の骨格	<pre> graph LR     subgraph Waste_Management [ごみ処理基本計画]         A[ごみ処理基本計画] --&gt; B[清掃・リサイクル事業を取り巻く現状と課題]         A --&gt; C[基本的な考え方と目標]     end     subgraph Wastewater_Treatment [生活排水処理基本計画]         D[生活排水処理基本計画] --&gt; E[生活排水処理事業を取り巻く現状と課題]         D --&gt; F[基本的な考え方と将来予測]     end     B --- G[・人口及び産業の動向 ・ごみ処理の現状 ・現計画の総括 ・将来予測と主な課題]     C --- H[・基本理念 ・基本方針 ・計画目標 ・目標達成に必要なごみ減量化、資源化の原単位 ・ごみ排出抑制等のための方策 ・分別収集するごみの区分と種類 ・排出抑制及び資源化施策後のごみ排出量と資源化量 ・排出抑制及び資源化施策後のごみ排出原単位と資源化率 ・ごみの適正処理及びこれを実施する者に関する基本的事項 ・ごみ処理施設の整備に関する基本的事項]     E --- I[・生活排水処理の現状 ・収集・運搬の現状 ・処理の現状]     F --- J[・基本方針 ・処理の主体及び体制 ・今後の予測]     </pre>

## ■ 成果指標

成果指標名		単位	現状値	実績値 (R1)	目標値
1	1人1日あたりのごみ排出量(家庭系ごみ)	g/ 人・日	722	737	685
2	1人1日あたりのごみ排出量(事業系ごみ)	g/ 人・日	243	183	207
3	資源化率	%	37.0	30.8	42.0
4	生活排水処理率	%	78.2	80.2	84.0
5					

## ■ 計画の実績等

取組実績	<p>家庭系ごみは、ごみダイエットサポーターや市民団体と協働し、食品ロス削減や雑がみ及びその他色びんの分別収集に向けた準備を進めるなど、3Rによるごみの減量とリサイクルに取り組んだ。事業系ごみは、収集運搬処理業者に対して産業廃棄物の混載や資源物の混入がないか搬入検査を実施するなど、分別・搬入指導によるごみの減量とリサイクルに取り組んだ。</p> <p>また、刈り草コンポスト化センター(堆肥化施設)の運営を民間事業者に移譲し、移譲後は公共事業等で積極的な活用が図られるよう周知に努めた。</p> <p>公共下水道井田川・能褒野処理分区他2処理分区について供用を開始するなど、事業計画に基づいた生活排水処理施設の整備を行った。</p>
成果	<p>1人1日あたりのごみ排出量は減少したが、内訳を見ると、家庭系ごみは737g(前年度比11g増)で、近年の直接持ち込みごみの増加を抑制することができなかった。一方、事業系ごみは堆肥化施設の運営を民間事業者に移譲したことで総合環境センターでの刈り草処理量が減少したことが要因となり183g(前年度比64g減)と目標値を達成できた。資源化率は、ペーパーレス化やスーパー等の店頭回収による紙類の減少、堆肥化施設の運営移譲等により30.8%(前年度比2.2ポイント減)と低下した。</p> <p>生活排水処理率については、井田川・能褒野処理分区他2処理分区の供用開始により、生活排水処理率の向上に努めた。</p>
総合計画 推進への 寄与度	<p>堆肥化施設を運営移譲したことで、事業系ごみ(刈り草)の減量化が図られたとともに、令和2年10月に雑がみ及びその他色びんの分別収集を試行的に開始できるよう進めたことで、今後の市民1人1日あたりの排出量の低減や資源化率の向上に寄与できるものと考えられる。</p> <p>公共下水道事業や農業集落排水事業の供用開始区域内の市民に接続を促したことで、生活排水処理対策の推進に寄与できた。</p>

反省点・課題	<p>近年増加傾向にある家庭系ごみの減量化に取り組んだが歯止めをかけることができず、ごみピット内の組成調査では厨芥類や紙類の割合が高い結果となった。</p> <p>生活排水処理については、経済的、効率的な処理方式を選択し、生活排水処理施設の整備を進める必要がある。</p>
--------	--

今後の方向性	<p>家庭系ごみにおける食品ロス削減及び雑がみ等の分別収集の取組を着実に進め、ごみの減量化とリサイクルの推進を図る。</p> <p>生活排水処理施設整備を計画的、効率的に進め、整備された地域において、下水道への接続率の向上を目指す。</p>
--------	--